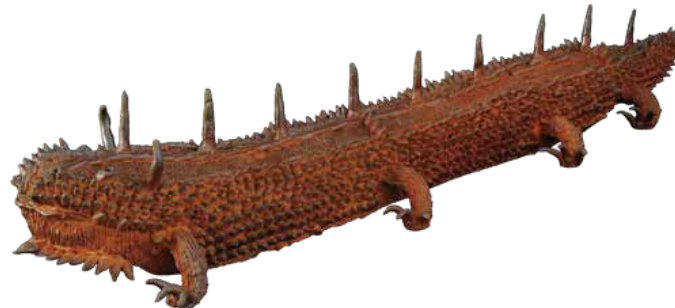




【無題】2006-07年
陶土、自然釉
295×291×70mm



【無題】2006-07年
陶土、自然釉
124×675×202mm

澤田 真一



澤田 真一 Shinichi Sawada
1982年～ /滋賀県在住

澤田さんは少女のようにしなやかな細長い指で、一つひとつの小さな棘をゆっくりと植え付けてゆきます。時おり本当に嬉しそうににっこりして、黙々と制作しています。静かな時間と緑の空気に満たされた彼の陶作場は、滋賀県の山奥にある窯場です。

彼のこの不思議な造形は、何かをイメージしているのか、それともその時の直感的な思いつきなのかは不明です。しかし、既に完成形が見えているのかと思うくらいに、なんの迷いもなく制作は淡々とスピーディーに進むのです。大きい作品も4～5日で仕上げゆき、作品はいくつかのテーマに分類できますが、サイズや形状は様々です。できあがった作品たちは、施設の担当スタッフによって、まる3日間ほど薪を燃やして窯で焼かれ、自然や偶然の炎によって赤茶色の濃淡が色付けられてゆくの。窯から出た

彼の作った生き物たちは、ひっそりと山の窯場の暗い棚に、何体も並んでいます。トゲトゲしているのに、なんともユーモラスな愛らしさ。その不可思議な存在感の魅力で彼の作品は多くのファンを持っています。

この粘土造形によって、自閉症の彼が、1人で空想世界の中を自由に飛び回り、至福の時を遊んでいるのがよくわかります。それはどこにもない、自分だけが生み出した造形美の宇宙なのです。

彼は、言葉で自分を表現することはありませんが、彼の作品は海外を含む多くの作品展で、世界中の人々を魅了しています。もの静かな彼の作り出すものが、異文化の欧米の人々の心をひきつけてしまうのは、文化や歴史を超えた何か、人を揺り動かすからなのでしょう。



【無題】2006-07年
陶土、自然釉
421×215×202mm